

# ランブール信用と我貿易金融の改善

長崎高等商業學校教授 奥 田 唯 輔

## 一、ランブール信用の諸型態

日本金融市場最大の缺陷は、公開割引市場の殆んど見るべきものなきの點にある。公開割引市場の殆んど見るべきものなきの所以は、之を主としてその取引物件ことに銀行引受手形の缺如に歸することを得る。故に我公開割引市場を發達せしめ、以て我金融市場を完成するがためには先づ銀行引受手形を市場に實現せしむることが其の第一要件である。

公開割引市場に於て取引せらるべき銀行引受手形は、これを主として貿易金融の方面より求めなければならぬ。それがためには從來の我が貿易金融を改善しなければならぬ。從來如何なる方法により我が貿易金融が行はれ、又如何に之を改善することにより、我が金融市場に銀行引受手形を供給し得るに至るやを研究することが本文の主たる目的である。

① 奥田唯輔：我割引市場の缺陷・長崎高等商業學校研究館彙報第二十五卷第四號  
② W. Leaf: Banking, pp. 208-225.

凡そ貿易金融は、之を個人手形による場合とランブル信用による場合との二つに大別することを得るであらう。抑もランブル (Rembours) とは、廣義に於ては、貿易商品の代金の送付支拂を意味する、而て狹義に於ては、銀行ランブル (Bankrembours) と同義にして、銀行が支拂義務者たる買手の委託により、買手の支拂義務—それは依然として存続するが—履行を引受くるといふ形式による貿易商品の代金支拂過程を意味する。<sup>①</sup> 支拂義務者たる買手が、銀行に對しその支拂の委託をなすに當りては、無條件にて之をなすべきことを委託する場合と、條件付にて之をなすべきことを委託する場合との二つがある。條件付とは商品又は荷爲替書類と引換に支拂をなすべきことを意味する。これ無條件銀行ランブルと條件付銀行ランブルとの別の生ずる所以である。クリーン信用狀 (Clean Credit, freies oder glattes Akkreditiv) に依る場合が、即、前者に屬する。<sup>②</sup> 而て後者、即、條件付銀行ランブルは之を更に一、荷爲替信用狀による場合と、二、手形ランブル信用による場合と、三、商業信用狀による場合との三つに分類することを得るであらう。<sup>③</sup>

一、荷爲替信用狀 (Waren- oder Dokumentenakkreditiv) による場合、Waren- oder Dokumentenakkreditiv とは、ロット・メツクによれば、委託者 (輸入商) の計算に於て、第三者 (輸出商) に對して商品又は荷爲替書類引換に一定額の支拂をなすべき又は他の銀行をして支拂はしむべきことを委託する銀行への支拂委託である。<sup>④</sup> 即、彼によればこの場合關係當事者として、次の三者が存在する。

① P. Rozumek: Das Kreditgeschäft im Bankbetriebe, 8. Aufl., Hamburg 1933, S. 88.

② E. Giese: „Akkreditiv“ im Handwörterbuch des Bankwesens, S. 14.

③ P. Rozumek: a. a. O., S. 89.

④ P. Rozumek: a. a. O., S. 88. S. 94.

W. Kalveram: Bankbetriebslehre in „Handelshochschule“ Lieferung 53. S. 1401.

E. Giese: a. a. O., S. 16.

1. 商品の買手、即、支拂委託者(Akkreditivsteller, Auftraggeber)

2. 商品の賣手、即、受益者(Begünstigter)又は支拂被委託者(Akkreditierter)

3. 兩者の間に介在する銀行、即、受託銀行(Beauftragte Bank)

而て、受託銀行は受益者住所地の銀行に對し更にその支拂の委託をなすのが普通である。かくてこれに第一受託銀行—新委託者—と第二受託銀行—新受託銀行—との別が生じ得る理である。

即、Waren—oder Dokumentenakkreditiv とは、本來委託者が受益者のためになす銀行への支拂委託(Auftrag) である。しかし單純なる支拂の委託に非ずして、商品又は荷爲替書類引換になすべき支拂の委託である。支拂(給付)と商品又は書類(反對給付)とを連結せる條件付支拂委託である。しかし Waren—oder Dokumentenakkreditiv とは、又かゝる支拂委託そのものゝ外、かゝる顧客よりの條件付支拂委託に基きて、受託銀行が受益者宛に發行する條件付支拂—普通は受益者(輸出商)振出、委託者(輸入商)宛手形の支拂<sup>②</sup>の承諾狀そのものをも指すのである。<sup>③</sup>(但し我國の荷爲替信用狀は受託銀行の特定銀行宛支拂委託<sup>④</sup>の形式をとる、又獨逸に於ても第二受託銀行介在するときは、それは第一受託銀行が更に第二受託銀行宛に發行する第三者(受益者)への條件付支拂の委託狀の形式をとる<sup>④</sup>)

この荷爲替信用狀は、獨逸に於ては受託銀行、即、信用狀發行銀行より直接受益者に對し送付せられ、同時に委託者に對しては、別に、銀行より受託の上、信用狀を受益者宛送付せる旨、通知するものの如く

① G. Obst: Das Bankgeschäft. Bd. I, S. 408.  
G. Obst: Geld—Bank—und Borsenwesen, S. 269.  
② W. Kalveram: a. a. O., S. 1406.  
G. Obst: Das Bankgeschäft, Bd. I, S. 408.  
③ P. Rozumek: a. a. O., S. 96.  
④ G. Obst: a. a. O., S. 407.

である。<sup>①</sup>（反之、我國に於ては發行銀行之を委託者すなはち輸入商に交付し、輸入商）  
 が更に之を註文書と共に受益者すなはち輸出商に送付するを普通とす。）

我が輸入貿易金融に於て使用せらるゝ信用狀も殆んど——ロンドン又はニューヨーク宛手形による場合を除く

——皆この荷爲替信用狀に屬するものなりと解すべきであらう。

（我國では、この荷爲替信用狀に關する概念が明瞭な  
 用狀とを混合し、又はこの荷爲替信用狀を以て、後述の商業信用狀の一種——即これにクリーン信用狀と荷爲替  
 信用狀との二ありとなす——なりと解する者が少くない。信用狀に關する見解は全く混沌たるの有様である。）而て、こ

の荷爲替信用狀には確認信用狀 (bestätigte oder unwiderliche Akkreditiv) と不確認信用狀 (unbestätigte oder  
 widerliche Akkreditiv) との二種がある。不確認信用狀に於ては、委託者又は受託銀行——銀行側よりなすこ

とは極めて稀であるが——は、都合により何時にても之を撤回し得るのである。故に受益者、即、輸出商はかゝ  
 る信用狀付註文を受け特別の商品發送準備をなしたる後に於て、信用狀の取消を受くる時は、多大の損害を受  
 くべきを以て、之を避くるがため、豫め確認信用狀を要求するに至る。確認信用狀に於ては、その記載文言中  
 に之を認め得べき文言あるを普通とし、この確認によりて、受託銀行は受益者に對して直接獨立的債務關係を  
 有するに至る。<sup>②</sup>

確認信用狀には必ず有効期間（獨に於ては荷爲替書類提出期限、我國に於ては荷爲替提出期限又は船積完了  
 期限）<sup>③</sup>が付せらる。蓋、委託者又は受託銀行は無限にかゝる債務關係の下に置かるゝを得ざるが故である。

二、手形ランブル信用 (Wechselrembourskredit) による場合、手形ランブル信用とは、銀行が輸入貿  
 易金融に於て、その依頼に應じ顧客たる輸入商(買手)に對してその輸出商(賣手)のために許與せる、荷爲替書

① P. Rozumek: a. a. O., S. 97.

G. Obst: a. a. O., S. 409.

② P. Rozumek: a. a. O., S. 97.

③ P. Rozumek: a. a. O., S. 96.

④ 中井長三郎・荷爲替信用狀・金融大辭典第二卷 1313 頁

類引換條件付になすべき手形引受信用(Akzeptkredit)である。<sup>①</sup>顧客は前述の荷爲替信用狀による場合の如く、銀行に對し、輸出商のために、荷爲替書類引換條件付支拂を依頼する場合もあるが、又かゝる現金拂の代りに條件付引受信用を許與すべきことを求むる場合もある。この現金拂の代りに手形引受信用を以てせる銀行に對する一種の條件付支拂委託が即ちこの手形ランブル信用である。而てこの場合その受託銀行はその支拂委託に基き輸出商(受益者)をして輸入商(委託者)の代りに自己宛に貿易商品代金を額面とする手形を振出さしめ、これに對し呈示あり次第、荷爲替書類引換を條件としてその引受をなすべきことを諾するものである。而てこの受託銀行の輸出商、即、受益者に對する自行宛手形引受の承諾狀が所謂手形ランブル信用狀(Wechselremboursakkreditiv)である。この信用狀は受託銀行(信用狀發行銀行)より受益者宛に發行し之を委託者、即、輸入商へ交付し、それより更に注文書と共に受益者、即、輸出商へ送付するを普通とする。<sup>②</sup>この手形ランブル信用狀にも又確認信用狀(unbestätigtes Wechselremboursakkreditiv)と不確認信用狀(bestätigtes Wechselremboursakkreditiv)との別存し、不確認信用狀に於ては、受託銀行と委託者(輸入商)との了解不完全、委託者の信用狀態の惡化、又は、その他の理由により、それに基づき振出されたる手形がその引受を拒絶せらるゝことあるも、確認信用狀に於てはかゝる危険無く、それにより受託銀行は直接——受託銀行と委託者との關係如何に拘はらず——受益者(輸出商)に對し手形引受債務を負ふに至るものである。<sup>③</sup>すなはち受託銀行は受益者に對し手形引受債務を有し、委託者は受託銀行に對し、満期日前に於ける手形支拂資金調達の義務を有するに至る、しかもこの場合銀行の手形引受債務は手形支

① P. Rozumek : a. a. O., S. 104.  
W. Kalveram : a. a. O., S. 1400.  
② W. Leaf : Banking, p. 192.  
③ P. Rozumek : a. a. O., S. 108.

拂資金調達上の委託者の義務に對し獨立的存在である。<sup>①</sup>

固有の手形ランブル信用とは、かくの如く輸入貿易金融に於て、銀行が顧客たる輸入商に對して輸出商のため許與せる手形引受信用——荷爲替書類引換條件付——を意味すれ共、それは更に廣義に於ては、輸出貿易金融に於て、銀行が顧客たる輸出商に對して許與せる手形引受信用——荷爲替書類引換條件付——をも意味するものである。<sup>②</sup> この場合には別に信用狀は發行せられずして、唯、顧客と銀行との間に手形引受信用契約存するのみである。

手形ランブル信用に基き振出され、而てその振宛銀行により引受濟となれる手形は、所謂銀行引受手形にして、ロンドンに於ては Bank bills (但し、嚴格に云へば個人手形なるも海外銀行が海外に於て之を割引し、取立のためロンドン金融市場に於ては Bank bills と稱せらる。) ニューヨークに於ては Bank acceptance (もつとも米國に於ては次に述べる商業信用狀によれるものである、但、貿易手形) ドイツに於ては Remboursakzept (純貿易引受手形) 又は Bankakzept (銀行引受手形を含む) と稱し、金融市場に於て極めて重要な地位を占め、その割引市場に於ける主要取引物件である。蓋し、かくの如きランブル信用に基く銀行引受手形は、國內商業手形 (Warenwechsel) と同様、商品取引を基礎として振出され、從つてそれはそれ自體に自動的決濟力を有するのみならず、更に、その支拂人は信用最も厚き銀行 (又は手形引受商會) であり、又國內銀行引受手形には可なり多量の融通手形 (Finanzakzept) を含めるに反し、それは悉く實手形にして——これランブル引受手形 (Remboursakzept) を以て真正銀行引受手形、legitimes "Bankakzept" と稱する——とある所以である<sup>③</sup>——信用の度最も高きが故である。

① P. Rozumek: a. a. O., S. 105.  
 ② W. Kalveram: a. a. O., S. 1403.  
 ③ W. Leaf: ibid. p. 204.  
 ④ W. Leaf: ibid. pp. 203-225.  
 ⑤ P. Rozumek: a. a. O., S. 107.

然るに我が金融市場に於ては、現今この銀行引受手形は皆無の状態にある。故に我が公開割引市場を發達せしめ以て金融市場を完備するがためには、從來の貿易金融を改善し、以てこの真正銀行引受手形を市場に供給することが何にも増して必要なる前提條件である。而てこれに付ては後に之を詳論するであらう。

三、商業信用狀(Commercial Letter of Credit, amerikanischer Kreditbrief, Warenkreditbrief)による場合、ロツメツクによれば、荷爲替信用狀と手形ランブル信用狀との中間的存在がすなはち米國式商業信用狀である。<sup>①</sup>

すなはち商業信用狀とは、米國の銀行が輸入貿易金融に於て、その依頼に應じ顧客たる輸入商に對して、その輸出商のために、許與せる手形振宛信用(Trassierungskredit)に基き、之を證するがため銀行が輸出商宛に發行する自行宛手形の條件付支拂又は引受承諾狀である。これにより銀行は輸出商に對し自行宛手形振出の權限を附與し且その支拂又は引受を荷爲替書類引換條件付を以て約するものである。この商業信用狀も銀行之を發行してその依頼者たる輸入商に與へ、更にそれより輸出商に送付せらるゝを普通とする。<sup>②</sup>(尤も電報によるときは、先づ暗號電報輸出商所在國取引銀行へ向け發せられ、更にその取引銀行より輸出商宛に案内狀が發送せられる。しかへして眞の商業信用狀は發行銀行より其後に、取引銀行の手を経て、輸出商に送達せらるるのである。<sup>③</sup>)

ロツメツクは商業信用狀を以て、荷爲替信用狀と手形ランブル信用狀との中間的存在なりとなす。然らばこの三者の異同は如何なる點に存するか。先づ商業信用狀と荷爲替信用狀との異同に付、ギーゼは次の如き點を指摘して居る。<sup>④</sup>(ロツメツク自身は三者の異同點に付、別に特別なる指摘を試みて居らぬ。<sup>⑤</sup>)

① P. Rozumek: a. a. O., S. 111.  
② E. Giese: a. a. O., S. 17.  
③ P. Rozumek: a. a. O., S. 113.  
④ E. Giese: a. a. O., S. 14.  
⑤ P. Rozumek: a. a. O., S. 111.

イ、荷爲替信用狀 (Waren-oder Dokumentenkreditiv) は、受託銀行 (信用狀發行銀行) の受益者 (輸出商) 宛、荷爲替書類 (特にその船荷證券の名宛人は積出人指圖式 Order des Abladens, 即ち Order) 引換條件付支拂——普通は委託者宛手形の支拂——の承諾狀である。然るに商業信用狀は受託銀行 (信用狀發行銀行) の受益者 (輸出商) 宛荷爲替書類 (特にその船荷證券の名宛人は信用狀發行銀行指圖式 Order der Bank たるもの) ① 引換條件付支拂又は引受——自己宛手形の支拂又は引受——の承諾狀である。かくの如く前者は委託者宛手形の條件付支拂承諾狀であり、後者は自己宛手形の條件付支拂又は引受承諾狀、換言すれば自己宛手形振出權限附與書である。 (かく觀じ來れば、兩付 (支拂又は引受) 承諾狀であり、其の本質上は、オープストやエドワーズの指摘するが如く殆んど差異なきものとも云ひ得るであらう。しかし少く共この場合支拂の對照物に於ては、はつきり異つて居り、その振出さるる手形は前者に於ては委託者宛手形なれ共、後者に於てはそれは銀行宛手形である。)

ロ、荷爲替信用狀による場合は、獨逸に於ては、普通、受託銀行 (信用狀發行銀行) より直接之を受益者に送達するのであるが (我が荷爲替信用狀は受託銀行發行→委託者→受益者) 商業信用狀に於ては受託銀行これを委託者 (輸入商) へ交付し、委託者 (輸入商) より受益者に送付するのである。

ハ、ドイツの荷爲替信用狀による場合に於ては、輸出商は第二受託銀行に於てそれに基づき振出せる手形の買取、即支拂を受くるに當りては、船荷證券は三通共揃へて割引銀行に提出しなければならぬ。然るに米國式商業信用狀による場合に於ては、船荷證券の中一通は割引銀行に提出し、他の二通は輸出商より直接信用狀發行銀行宛に送付するを常とする。②

① P. Rozumek: a. a. O., S. 101.

② E. Giese: a. a. O., S. 17.

③ G. Obst: a. a. O., S. 409.

④ W. Edwards: Commercial Letter of Credit in der Praxis der Vereinigten Staaten, Bank-Archiv. XXI, 16.

⑤ W. Kalveram: a. a. O., S. 1406.

⑥ P. Rozumek: a. a. O., S. 100.

⑦ E. Giese: a. a. O., S. 17.



ニ、荷爲替信用狀により振出されたる手形は、必ず受託銀行(すなはち當該信用狀發行銀行)又は第二受託銀行に於て、支拂即買取を求めなければならぬ。然るに商業信用狀により振出されたる手形は、受益者(輸出商)は、之を任意の銀行に於て割引することを得る。即、割引銀行選擇の自由が存する。

然らば、次に、商業信用狀と手形ランブル信用狀とは如何なる點に於て異なるか。これを指摘することは頗る困難なれども、前者は受託銀行が委託者(輸入商)に對し受益者のために許與せる手形振宛信用(Trassierungskredit)に基き、受益者(輸出商)宛に發行せる、自己宛手形の支拂又は引受——荷爲替書類引換條件付——の承諾狀、即手形振宛權限附與書である。しかるに後者は、受託銀行が委託者(輸入商)に對して受益者のために許與せる手形引受信用(Akzeptkredit)に基き、受益者(輸出商)宛に發行せる、自己宛手形引受——荷爲替書類引換條件付——の承諾狀である。一は手形の支拂又は引受を承諾せるものであり、他は手形の引受のみを承諾せるものである。然らばそれは實際的には如何なる差異あるや、私見を以てすれば前者により振出される手形は、一覽拂手形(Sicht-Traite)又は一覽後定期拂の手形(Ordre 90-Tage-Traite)たり得れども、後者により振出される手形は、必ず一覽後定期拂の手形に限られ、一覽拂の手形は之を振出すことを得ない理である。<sup>①</sup>蓋し一覽拂手形により銀行の引受を求むることは不可能なるが故である。その他の點に於ては、商業信用狀と手形ランブル信用狀との區別は、殆んど困難である。即、兩者はその本質上、大同小異であるといつて差支ないであらう。

## 二、我貿易金融と手形ランブル信用

① P. Rozumek: a. a. O., S. 111.

既に述べたるが如く、貿易金融は之を個人手形による場合とランブル信用による場合との二つに大別し、ランブル信用による場合は、更に無條件ランブル信用と條件付ランブル信用との二つに分類し、條件付ランブル信用は更に、又、これを荷爲替信用状による場合と、手形ランブル信用（これには輸入手形ランブル信用と輸出手形ランブル信用との二つがある）による場合と、商業信用状による場合との三つに類別することを得る。

而て一國の金融市場に優良なる銀行引受手形を豊富に供給するがためには、先づその國の貿易金融を手形ランブル信用（又は商業信用狀）而て商業信用狀と手形ランブル信用狀とは既述の如く大同小異なるを以て以下これを省略す）により行はなければならぬ。すなはち輸入貿易金融を手形ランブル信用、固有の手形ランブル信用により行はなければならぬ。その外、輸出貿易金融の方面に於ても出來得る限り、輸出手形ランブル信用を利用することが必要である。蓋し既に述べたるが如く、手形ランブル信用に基き貿易金融の方面より生づべき銀行引受手形は、實手形にして、そは貿易取引に立脚せる自動的決濟力を有し、又、その引受人は銀行なるを以て、信用の度最も高く、即、眞正銀行引受手形（*legitimes "Bankakzept"*）にして、且、その量も最も豊富なるべきを以てである。

然るに我が貿易金融について之を觀るに、後に詳述するが如く輸入貿易金融は主として荷爲替信用状により（ロンドン又はニューヨーク決濟の場合を除く）、又、輸出貿易金融は主として外國の注文主より送付の手形ランブル

ル信用狀（又は商業信用狀）又は個人手形によつて行つて居る。さればかゝる現狀に於ては、輸入貿易金融の方面よりも、輸出貿易金融の方面よりも、我市場にこの銀行引受手形を供給することは不可能である。

故に眞正銀行引受手形を我金融市場に豊富に供給し之を完備發達せしむるがためには、理論上當然先づ第一に輸入貿易金融の方面に於て、從來の方法を改め、手形ランブル信用によるやうにしなければならぬ。又その外輸出貿易金融の方面に於ても、出來得る限り輸出手形ランブル信用を利用することが必要である。しかしこれを實行するがためには相當の困難を伴ふであらう。然らばその伴ふべき諸困難とは如何なるものか、私見を以てすれば次の如き諸點を挙げ得るであらう。

- 一、我國の貿易手形は主として外貨手形なること。
- 二、國民が未だ銀行手形引受制度に慣れざること。
- 三、我國に於ては金利が高きこと。
- 四、我國に於ては輸出貿易金融に於て銀行も顧客も手形ランブル信用により資金を調達することを事實餘り好まざること。

更に、私は以上の諸點を吟味し、果して我國に於て此等の諸困難を除去し得ざるや否やに付て考察するであらう。

一、我國の貿易手形は主として外貨手形である。我國に於ては後に詳述するが如く、輸入手形も輸出手形も大

部分が外貨手形である。而て外貨手形なるときは手形ランブル信用により銀行が手形の引受を約し又は引受するもその後に於ける爲替相場の變動——而て我國に於ては、それが極めて大であつた——により絶えずその責任額の變動を見るべきを以て、自然銀行は貿易手形の引受を約するを好まざるべく、又よしんば之を引受くるも所持銀行はかゝる外貨手形を、我金融市場に於て流通せしむることは相當困難である。これ我國に於て貿易金融上手形ランブル信用制度の實施せられざりし最大の原因であらう。戦後一度我輸入貿易金融に本制度が輸入せられながら自然消滅せるもこのためであらう。しかし我貿易手形は必ずしも全部外貨手形なるに非ず、例へば棉花の輸入手形、滿支南洋等よりの輸入手形、又滿支南洋等への輸出手形は大部分圓貨手形である。故に先づこの圓貨手形に付てのみ手形ランブル信用制度を實施することも無意義ではあるまい。

更に立場を變へて考察するに、我國の貿易がかく外貨手形により行はれ居ることは我國に於て割引市場、金融市場が発達せざるがためにして、我國の金融市場の發達を見るに至れば自然我國の貨幣圓の威力を増し、我國の貿易は勿論、東洋諸國の貿易も自然圓手形を以て決済せらるゝに至るべきことは、強ち空想ではあるまい。之を實例に徴するも大戰前の米國の貿易はボンド手形により決済せられ居たるが、大戰後米國の資金豊富となり、且手形引受制度の普及等によりその金融市場が発達するにつれ、遂にボンド手形を驅逐して、ドル手形がそれに代り、更に第三國の貿易すらもドル手形により決済せらるゝに至つたのである。由是觀是我國の貿易手形が大部分現今外貨手形であるといふ手形ランブル信用制度實施上の一大故障も、國民の努力如何によりては強ち打勝ち

難き故障ではあるまい。

二、國民が未だこの銀行手形引受制度そのものに全然慣れざること、手形ランブル信用制度とは、一言以て云へば貿易金融に於ける銀行手形引受制度である。即、銀行手形引受信用制度の一種である、――否それは手形ランブル信用制度より生れたるものである――而て我國民は未だこの銀行手形引受制度そのものに全然慣れて居ない。しかしこれ又國民の努力如何によりては容易に解決し得べき問題なりと信ず。即、例へば米國民の如きも永くこの制度の利便を充分理解せず、又、法律もこれを認めなかつたのであるが、一九一三年聯邦準備法の制定に當り初めてこの制度を認め、又學者實業家共にこの制度普及の必要なることを提唱せるがため、大戰を機とし、本制度の一大發展を見、現今の如き割引市場の出現を見るに至つたのである。支那に於てすら昭和十一年三月十六日以來銀行手形引受制度を採用し、上海の貿易商は漸時本制度に慣れその便益を認めつゝありと云ふ。

三、我國に於て從來金利が高かりしことも亦その障害の一つであつた。我國に於て手形ランブル信用を利用し手形を銀行引受手形として我市場に流通せしむるも、從來金利高かりしため、何等の利便を得る能はざりしことも我貿易金融上手形ランブル信用制度の利用を見ざりし一理由であらう。しかし近時我國の金利も大いに低下し、ためにこの金利上の故障も今日に於ては漸時減殺せられつゝありと云ふべきであらう。

四、我國に於ては輸出貿易金融に於て銀行も顧客も輸出手形ランブル信用により、資金を調達することを事實好まざる傾向あることも、又本制度發達上の一故障であらう。然らばその好まざる理由如何、先づこれを爲替銀

行の立場より見るときは、顧客に對し輸出手形ランブル信用を與ふるときは、その顧客はそれによりて得たる銀行引受手形を以て他の銀行に至りて之を割引に付すべく、然るときは自己が與へたる信用が動機となり、自己の顧客を他行に近づけ、遂には他行に顧客を奪はるべき危険存するが故である。更に之を顧客の立場より見るときは、輸出手形ランブル信用制度により資金を調達するときは、先づ自己の取引銀行(爲替銀行)に至り手形ランブル信用を依頼し、更に他の銀行に至り手形割引信用を依頼しなければならぬ。一つの資金を調達するために二つの銀行に至り、二度信用を依頼しなければならぬ。これ顧客の煩に耐へざる所なりと稱せらる。

しかし以上の困難も我公開割引市場發達し、こゝに於てビルブローカーを通じ銀行引受手形を何時にても割引に付し得るに至れば、爲替銀行の憂ふる危険も又顧客の煩雜も自然に解決を見るであらう。又例へばドイツの銀行の如きはこの不便を除去するために自己引受手形の割引なる便法を用ひて居る。即、自己の引受たる銀行引受手形を顧客の依頼に應じ更に自行に於て割引するのである。<sup>①</sup>尙本制度よく普及し、銀行も顧客もその便益の大にしてかくの如き不便を償うて餘りあることを知るに至れば、この故障もさまで大なるものではないであらう。

上述の如く、從來我貿易金融上手形ランブル信用制度が實施せられざりしことに付ては、種々の理由存せしならんも、その各々に付よくこれを吟味するときは、これを絶對的故障なりと稱することは出来ぬ。要は多少の故障を排しても之を實施するにある。然らば我國に於て之を實施するとせば、如何なる型態に於て之を實施すべきか、以下更にそれに付て研究を進めるであらう。

① W. Kalveram: a. a. O., S. 1399.

### 三、輸入貿易金融

我國に於て貿易金融上、手形ランブル信用制度を実施するとせば、それは如何なる型態の下に行ふべきか、私はその研究のために、先づ現今、我貿易金融は如何なる方法により行はれつつあるやを各場合に付、一應吟味し次でこの各場合に、手形ランブル信用制度を実施するとせば、それは如何なる型態により行はるべきやを考察するであらう。

我國の貿易金融は之を次の六つの場合に類別して考察することを得るであらう。

#### 〔イ〕 輸入貿易金融

- 一、歐米より輸入の一般の場合、即、外貨利付信用手形（荷爲替信用狀附）による場合。
- 二、米棉、印棉等の輸入、及滿支よりの輸入の場合、即、圓貨信用手形（荷爲替信用狀附）による場合。
- 三、濠州羊毛等輸入の場合、即、ロンドン、ニューヨーク宛信用手形（手形ランブル信用狀附）による場合。

#### 〔ロ〕 輸出貿易金融

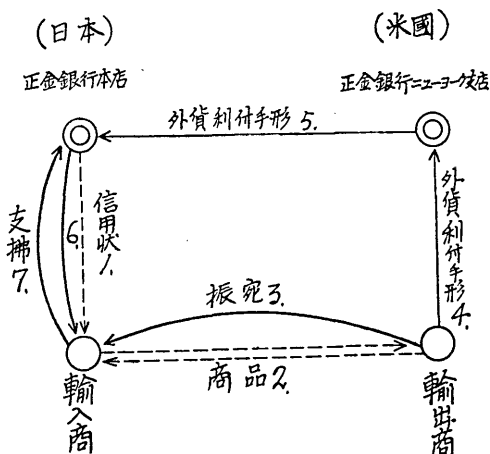
- 一、歐米宛輸出の一般の場合、即、外貨信用手形（手形ランブル信用狀又は商業信用狀附）による場合。
- 二、中南米、アフリカ、近東、南北歐、ソ聯等宛輸出の特殊の場合、即、外貨個人手形による場合。
- 三、滿支・南洋宛輸出の場合、即、圓貨利付個人手形による場合。

更に各場合に付て研究の歩を進めるであらう。

〔イ〕 輸入貿易金融

一、歐米より輸入の一般の場合、即、外貨利付信用手形（荷爲、信用狀附）による場合。

それは次の如き過程により行はれて居る。



1. 日本輸入商は爲替銀行に至り荷爲替信用狀の交付を求め、注文書と共に之を例へば米國輸出商に送附す。
2. 米國輸出商は注文に應じ商品を日本輸入商宛に送附す。
3. 輸出商はそれと同時に日本輸入商宛に手形を振出し、これに商品輸送に關し取得せる船荷證券、保險證券、送狀、原產地證明書、領事證明書、荷爲替手形副證書等の荷爲替書類を添附す。
4. この荷爲替手形は外貨利付手形である。これを輸出商は例へば信用狀に基きその指定せる正金銀行ニューヨーク支店に於て割引に付す。
5. 正金銀行ニューヨーク支店は荷爲替書類引換にその手形を割引しこれを横濱正金銀行本店に送附す。
6. 正金銀行本店は更にこれを輸入商に呈示し、引受を求め、満期日に至ればその支拂を求む、荷爲替書類は引受渡し（D/A）又は支拂渡し（D/P）により之を輸入商に交付す、しかしD/Pの場合に於ても、その手形の前拂又はトラスト・レシートの差入により書類を交付することがある。輸入商はこれを以て船會社に至り輸入商品の引渡を求む



(尤も輸入商品の到着が荷爲替の到着よりも早きときは所謂銀行保證に基く貨物の先取なる便法により、船荷證券なしに輸入商品が船會社より引渡されることがある對米取引に於ては寧ろそれが普通である)

7. 満期日に於て輸入商が支拂をなすに當りては手形額面及利子(利子は現今年五分の割、東洋關係の銀行間に於てロンドン及びニューヨーク兩市場で協定實施されて居る)か時の爲替相場により、圓貨に換算して支拂ふ。利子は正金電信賣相場(Acceptance rate)を以て支拂ふときは振出日から支拂日までの分を徴せられ、要求拂賣相場を以て支拂ふときは、更に、支拂地よりニューヨークに至る郵便日數に對する分をも徴せらる。

以上が從來の我國の輸入貿易金融の一般の場合である。これによるときは、荷爲替信用狀により手形ランブル信用によらず從てそこに銀行引受手形が出現せざるを以て爲替銀行はこれを我市場に再割引すること不可能にして、又輸出商もその振出せる手形の割引に當り爲替銀行を自ら選擇する自由なきを以て種々不利不便を蒙ることがあるであらう。然らばこの場合、手形ランブル信用を利用するとせば如何なる型態をとるべきか<sup>①</sup>。

過程 1. 日本輸入商は取引銀行に至り、手形ランブル信用狀の發行を求め、これを輸出商に送附す。

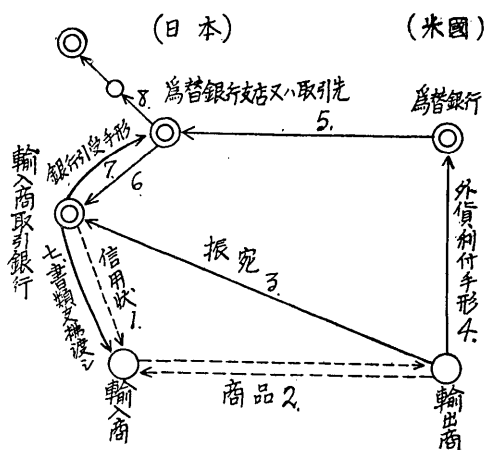
2. 米國輸出商は商品を船積送附す。

3. それと同時にその信用狀に基き輸入商宛でなく輸入商取引銀行(信用狀發行銀行)宛に手形を振出す、これに荷爲替書類を添加す。

4. それは外貨利付手形である。輸出商は爲替銀行の中、都合よきものを選び之を割引に付す、本來は振出せる

① W. Kalveram: a. a. O., S. 1402.

手形を銀行を通じ日本に送付し、信用狀發行銀行の引受を求めたる上、この銀行引受手形を爲替銀行に於て割引に付すべきも、かくては往復に長時日を要し、不便なるを以て、振出後直に割引を求むるの便法を撰ぶであらう。<sup>①</sup>



5. 爲替銀行はその手形を日本に於ける本支店又は取引先に送附す。

6. 日本本支店は更にこれを振宛銀行、即、信用狀發行銀行に送附呈示し、その引受を求む。

7. 信用狀發行銀行は荷爲替書類引換に之に引受をなし、銀行に返付す、かくて真正銀行引受手形が生ずるのである。

8. 爲替銀行日本本支店は、これを自己の手許に満期日まで所持し、満期日に至り自らその取立をなすこともあらう、しかし又、都合によりてはこれを日本の金融市場に於て割引に付するであらう——かくて我公開割引市場に銀行引受手形が現は

れ得る理である。

七、信用狀發行銀行 即、輸入商取引銀行は引受と引換に受領せる荷爲替書類を輸入商より手形支拂資金の送達あり次第(ロンドンにては普通手形満期日前三日)<sup>②</sup>之を輸入商に交付す。

① P. Rozumek: a. a. O., S. 109.  
W. Kalveram: a. a. O., S. 1401.  
② W. Leaf: ibid. p. 193.

以上が手形ランブル信用による場合の過程である。しかしこれには次の如き缺點を伴ふであらう。

イ、この場合、輸入商取引銀行は外貨信用狀(手形ランブル信用狀)を發行しなければならぬ。然るときは爲替相場の變動により銀行の責任額は斷えず變動するの危険不安がある。

ロ、又この銀行引受手形は外貨手形なるを以て、我割引市場に於て流通圓滑ならず。

以上の如き不便存在せるがためこの制度は戰後一時我輸入貿易金融上にも採用されたれ共、その後自然に消滅せり。故にこれを再び復活せしむることに付ては相當の困難ありと思はなければならぬ。

二、米棉、印棉等の輸入及滿支よりの輸入の場合、即、圓貨信用手形(荷爲替信用狀附)による場合、米棉印棉等の輸入は外貨手形によることもあるが、多くは圓貨手形によつて居る。その過程は次の如くである。(米棉の場合)<sup>①</sup>

1. 内地棉花輸入商(東洋棉花・日本棉花・江南・伊藤忠等)は爲替銀行に至り荷爲替信用狀の發行を求め、之を米國輸出商(多くは内地棉花輸入商のニューヨーク支店)に送附注文す。

2. 輸出商は注文に應じ棉花買入をなすため先づ爲替銀行(例へば正金ニューヨーク支店、即、多くは荷爲替信用狀名宛銀行)に至り、前貸金を求め、以て棉花買入資金を調達す、そは弗貨を以て支拂はる。

3. 輸出商はこれを以て棉花生産地たるテキサス州その他に至り市場に於て又は生産者より直接棉花の買入をなす。

4. 買入たる棉花は附近の港例へばガルヴェストン又はニューオールリーンプ港より船積し日本輸入商宛に送附す。

5. その荷爲替書類を輸入商宛に振出せる圓貨手形に添へこれを爲替銀行(荷爲替信用狀名宛銀行)に於て割引に付す、銀行はそ

の割引資金は手形の再割引、借入金、引受信用等により調ふ。

6. 輸出商はかくて例へばその手形が一覽後九十日拂のものなれば信用三ヶ月買相場にて換算して弗にて支拂を受く。

7. 輸出商はその受取りたる弗を以て、先きの前貸金元利金の返済をなす。

8. 爲替銀行ニューヨーク支店は買入たる圓貨手形を日本本店に送附す。

9. 日本の爲替銀行本店はこれを輸入商に呈示し、引受を求む、荷爲替書類はD/Aのときは引受と同時に渡し、D/Pなるときは支拂と引換に交付す。

10. 輸入商はその棉花を更に紡績會社に引渡す。

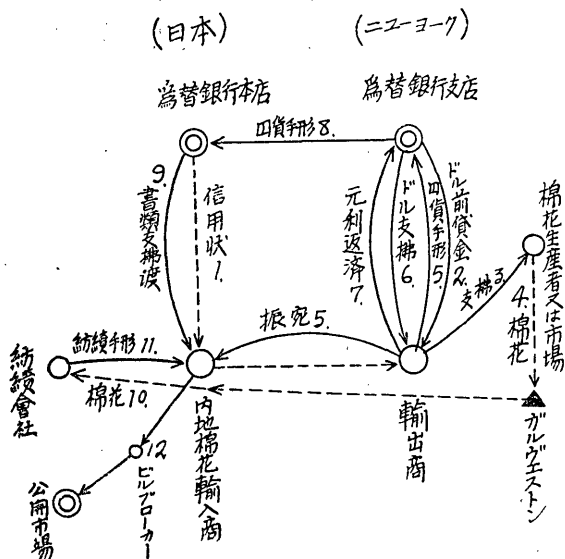
11. 紡績會社はこれに對し紡績手形を以て支拂ひ、又は現今の如く資金豊富なるときは歩引現金拂を選ぶ。

12. 紡績手形を以て支拂はれたるときは、それが更にビルブローカーの手を通じ市場に出されることがある。

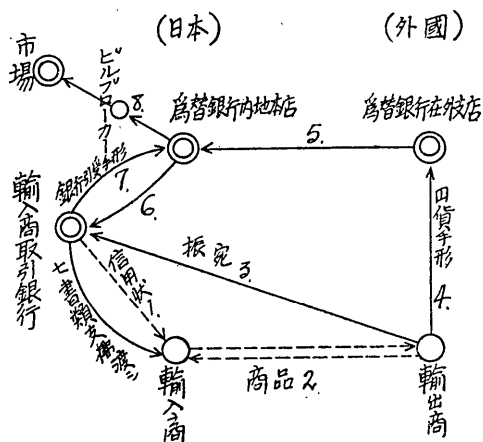
以上は米棉輸入の場合であるが、印棉輸入の場合も大同小異である（反之エジプト棉の輸入は英ポンド貨

信用手形（手形ランブル信用狀附）により決済せらる）

滿支よりの輸入貿易金融も大體右と同一過程により行はる。



以上の場合に於て輸出商に於て爲替銀行選擇の自由なく、又、爲替銀行に於ては手形の満期日前に於て之を銀行引受手形として金融市場にて換價處分するの便なきことは前述の如くである。この場合もし手形ランプールの信用制度を應用するとせば、それは如何なる型態の下に行はれるであらうか。凡そ次の如き各場合を想像し得る。



a) 輸出商が手形を直ちに爲替銀行にて割引に付する場合。

過程は次の如し。①

1. 輸入商は取引銀行に至り手形ランプールの信用状の發行を求めこれを輸出商に送附す。

2. 輸出商は商品を輸入商宛送附す。

3. 同時に輸出商は信用状により輸入商取引銀行宛に手形を振出す。

4. 輸出商はこの信用手形を自己の都合よき爲替銀行にて割引す。

5. 爲替銀行は更に日本支店に送附す。

6. 爲替銀行日本支店はこれを輸入商取引銀行に呈示引受を求む。

7. かくて引受済のときは銀行引受手形がこゝに生ずる。

① W. Kalveram: a. a. O., S. 1401.  
P. Rozumek: a. a. O., S. 109.

8. 爲替銀行本店はこの銀行引受手形を更にビル・ブローカーを通じて市場で再割引に附す。かくて我公開發引市場に銀行引受手形が現はれ得る理である——しかもそれは圓貨手形である（故に外貨銀行引受手形に付て見たるが如き不便なし）。

七、輸入商取引銀行は手形の引受と引替に受取れる手形附屬の荷爲替書類はこれを輸入商に手形支拂資金の送達と引換に引渡す。

この場合の信用狀は圓貨信用狀であり、又この場合の手形は銀行引受手形であり、而もこの銀行引受手形——我市場に流通すべき——は圓貨手形である。又輸出商に於ても爲替銀行選擇の自由がある。故に前例の外貨利付信用手形（荷爲替信用狀附）による場合の如き又は圓貨信用手形（荷爲替信用狀附）による場合の如き種々の障害はない。故にこの場合が我輸入貿易金融に於ては手形ランブル信用制度實施上最も現實的可能性に富んで居るといふべきであらう。故にこの場合に關聯する諸型態に付、以下更に之を詳細に研究するであらう。

唯以上の方法によるときは、輸出商所在國の金利が高き場合には輸出商にとり不利であらう。蓋しその割引する手形は未だ引受前なれば銀行引受手形に非ず。従てその割引料は、金利高と相俟ちて割高ならざるを得ないからである。

b) 輸出商が爲替銀行に於てその振出せる手形の引受請求方を依頼せる場合。<sup>①</sup> 即、輸出商は例へば滿支に於て見るが如くその國の金利高き場合に於ては、爲替銀行に於てその振出せる手形を直ちに割引せず、これを爲替銀行

① W. Kalveram: a. a. O., S. 1401.  
P. Rozumek: a. a. O., S. 109.

を通じ信用狀(手形ランブル信用狀)發行銀行に呈示してその引受を求めんことを爲替銀行に依頼する場合があり得る。(それが又、寧ろ正式の過程でもある。)<sup>①</sup> かくる場合に於ては、爲替銀行はこの圓貨手形を日本に於ける爲替銀行本支店に送り、信用狀發行銀行に付てその引受を求めしむ。爲替銀行本支店はこの銀行引受手形を依頼者たる輸出商に返送することなく——一應返送するのが正式であるが時日勞費の節約のために——直ちに輸出商の勘定に於て日本の市場に出し換價することがあり得るであらう。——もし我割引市場完備し且金利割安なれば——かくて圓貨引受手形が、又市場に現はれ得る理である。

c) 正(Prima) 副(Sekunda) 二通の手形を振出す場合、その過程は次の如し。<sup>②</sup>

1. 信用狀(手形ランブル信用狀)送附

2. 商品發送

3. 信用狀發行銀行宛圓貨手形振出

4. 輸出商はこの圓貨手形を爲替銀行にて割引す。同時にその副手形をも作製して渡す。

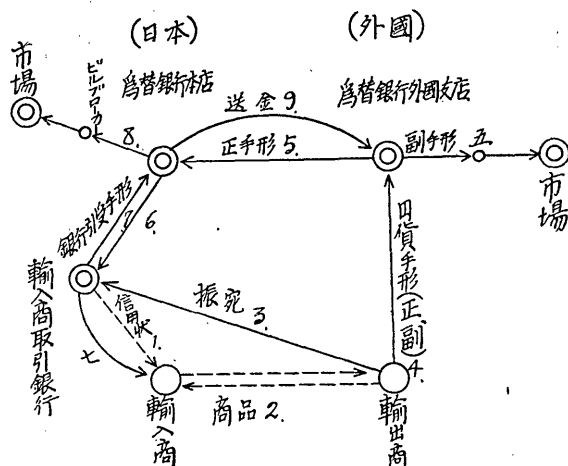
5. 爲替銀行は正手形はこれを引受を求むるため日本本支店に送附す。

五、副手形の金額は流通上の便宜を計るため、その時の爲替相場にて例へば弗貨に概算することがあり得る。

又その期日は正手形の收立金を以て支拂ひ得る様按排す。而て爲替銀行はこの副手形を直ちにその國の市場に於て再割引に付す。

① P. Rozumek: a. a. O., S. 109.  
W. Kalveram: a. a. O., S. 1401.

② P. Rozumek: a. a. O., S. 109.  
W. Kalveram: a. a. O., S. 1402.



なす、而も直ちに資金を要する場合、又は爲替銀行に於て手形關係者の信用をよく知らざるため不安を感じる場合には割引の代りに前貸の方法が選ばれる。その過程は左圖の示すが如く次の通りである。

1. 信用狀送附(手形ランブル信用狀)、
2. 商品發送、
3. 銀行宛手形振出、
4. その圓貨信用手形(荷爲替書類附)

6. 引受を求むるため正手形を呈示

7. 信用狀發行銀行は引受をなし返付

七、荷爲替書類の支拂渡し

8. 爲替銀行日本本店はこの銀行引受手形を我市場に出し割引に付す——かくて我公開割引市場に圓貨銀行引受手形が現はれ得る。

9. 爲替銀行本店はその手取金を外國支店に送金す、外國支店はこれを以て副手形の支拂をなす。

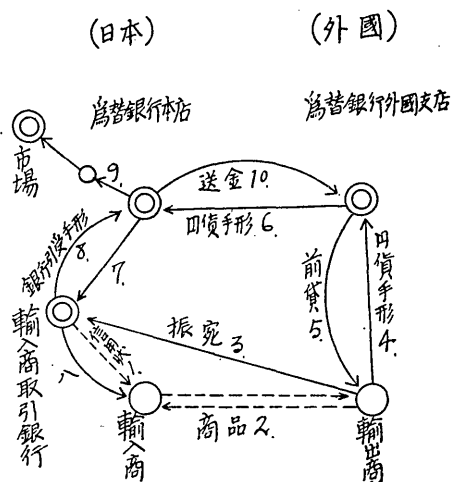
以上の方法によれば、爲替銀行の輸出手形買入資金調達上便利にして、實際諸外國に於ては相當行はれつゝあるものである。

d) 輸出商取引銀行に於て前貸を求むる場合、輸出商が金利

高その他の理由によりその振出せる手形の割引を爲替銀行にて

① W. Kalveram : a. a. O., S. 1402.





を擔保として輸出商は爲替銀行より前貸を求む、5. 爲替銀行はその手形額面の四掛乃至七掛の貸出をなす、6. 爲替銀行は圓貨信用手形を日本本店に送附す、7. 日本本店は手形を呈示、荷爲替書類引換にその引受を求む、8. 信用狀發行銀行は引受済の上はこれを返付す、9. 荷爲替書類の支拂渡し、10. 爲替銀行日本本店はこの圓貨、銀行引受、手形を我市場に於て、輸出商の勘定に於て割引に付す、11. 爲替銀行日本本店はその手取金を外國支店に送金し外國支店はこれを以て輸出商に對する前貸金を決済す。

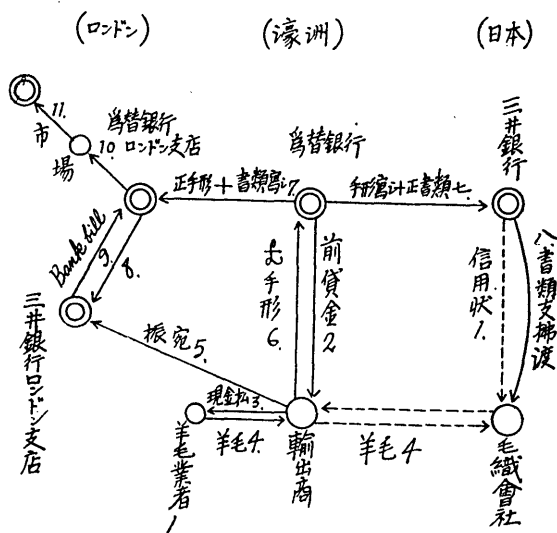
ロンドン、ニューヨークに於ける彼等の如く大ならざる現狀に於ては、又特に輸出商取引銀行、即、信用狀發行銀行が小銀行にしてその信用が未だ海外に認められ居らざるが如き場合には、實際行はれる可能性ありと云ひ得るであらう。

### 三、濠洲羊毛等輸入の場合

- 即、ロンドン又はニューヨーク宛手形(手形ランブル信用狀付)による場合。
- a) ロンドン又はニューヨーク所在銀行が手形の引受・支拂場所たるとき。例へば濠洲羊毛の輸入貿易金融は次の如き方法により行はる。

① W. Kalveram: a. a. O., S. 1402.  
P. Rozumek: a. a. O., S. 106.  
W. Leaf: ibid. p. 199.  
大島堅造・前掲・153 頁

1. 毛織會社は羊毛を輸入せんとするときはその取引銀行例へば三井銀行に至り、手形ランプールの信用狀（發行者日本三井銀行拂場所三井銀行ロンドン）の交付を求む。その信用狀は時に前貸金付信用狀なることがある。



2. 豪洲の羊毛輸出商——これは主として日本貿易商例へば三井物産、三菱商事、兼松商店、大倉商事、日本棉花、岩井商店等の支店である——はその信用狀の送附を直接毛織會社より受け、羊毛買入の資金を調達するため爲替銀行に至り、前貸金を求む。

3. 輸出商はこの前貸金を以て羊毛業者より羊毛を買入れ、現金拂をなす、羊毛は日本向發送す。

5. 輸出商は信用狀に従ひ、例へば三井銀行ロンドン支店宛に手形を振出す、それは手形である。

6. これが爲替銀行に於て割引に付す。

7. 爲替銀行はこの手形及、荷爲替書類の寫し、をロンドン支店に送附す。

七、同時に荷爲替書類、及、手形の寫し、を信用狀發行銀行たる日本の三井銀行宛に送附す。

八、三井銀行はその書類を毛織會社に支拂渡をなす、毛織會社はそれを以て船會社より輸入羊毛の受取をなす。

8. 他方ロンドンの豪洲爲替銀行支店は送附を受けたる手形を三井銀行ロンドン支店に呈示して引受を求む。

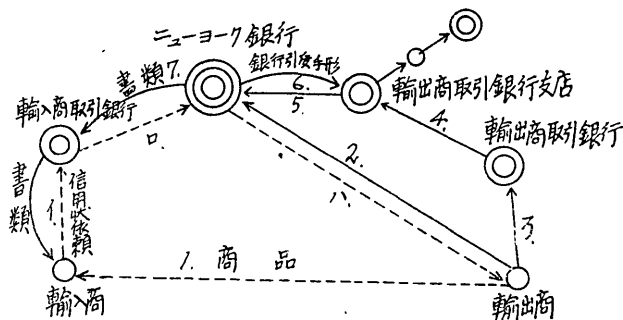
9. かくて所謂 Bank bill が生れるのである。

10. 爲替銀行 ロンドン支店はこの Bank bill を市場に出す、即ち、手形引受商會 (Discount Houses) に賣却し、手形引受商會は

又、これをロンドンの株式銀行に賣却するのである。その手取金は濠洲に送金する。

以上が濠洲羊毛等の輸入金融の概略である。

b) ロンドン又はニューヨーク所在銀行に手形ランブル信用を依頼するとき。<sup>①</sup> 又南米等より商品を輸入する場合、エジプト棉輸入の場合等には、ニューヨーク又はロンドン所在銀行發行の信用狀に基く手形により決済されることがある。その方法は次の如くである。



イ、ロ、ハ、日本輸入商は取引銀行を通じて例へば、ニューヨーク所在銀行に信用狀 (商業信用狀又は手形ランブル信用狀) の發行を求む。ニューヨーク所在銀行は、その信用狀を例へば南米の輸出商へ直接又は輸入商を通じて交付す。

1. 南米の輸出商は、その信用狀及注文書に基き日本向商品を發送す。

2. 同時に代金取立のための手形は、信用狀に基き信用狀發行銀行たるニューヨーク所在銀行宛に振出す。

3. 而てこれを輸出商取引銀行にて割引に付す。

4. 輸出商取引銀行はニューヨーク所在の例へば自行支店に送付す。

5. 同支店は引受を求むるため、手形を信用狀發行銀行に呈示す。

① W. Leaf: ibid. p. 196.  
W. Kalveram: a. a. O., S. 1403.  
G. Obst: a. a. O., S. 397.

6. 信用狀發行銀行は、荷爲替書類引換に之に引受す。——かくて銀行引受手形 (Bank acceptance) が生ずる——これが、又、割引市場に出される理である。

7. 8. 信用狀發行銀行は荷爲替書類を輸入商取引銀行に支拂渡をなしそれは更に之を輸入商へ支拂渡をなす。

以上の各場合は、我輸入貿易金融に於て、現に手形ランブル信用を利用する唯一の場合である、しかしその輸入手形は上述の如くロンドン又はニューヨーク市場にのみ現はれ、我金融市場には全然現はれ得ない。故にかゝる輸入手形を銀行引受手形として我市場に出すためには——殊に圓貨手形として——ロンドン又はニューヨーク決済を止め、棉花輸入貿易金融の場合に述べたる如く日本宛圓貨信用手形 (手形ランブル信用狀付) による様これを改めるより外に方法はないであらう。

#### 四、輸出貿易金融

一、歐米宛輸出の一般の場合、即、外貨信用手形 (手形ランブル信用狀又は商業信用狀附) による場合。

例へば我主要輸出商品の一なる生糸の輸出貿易金融は從來次の如き過程により行はれて居る。<sup>①</sup>

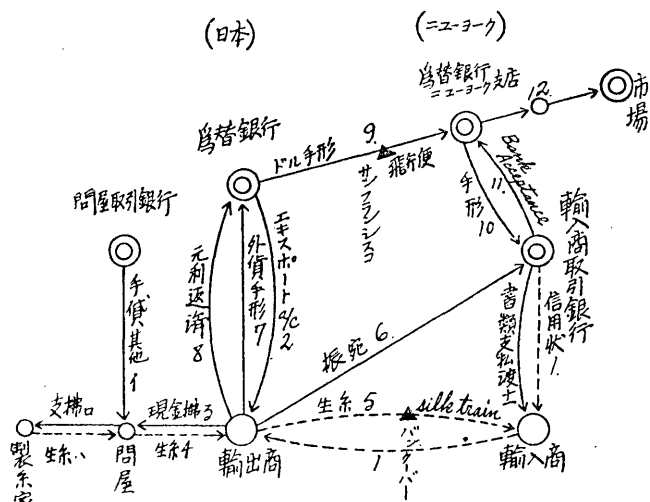
1. 例へば米國の輸入商は取引銀行より商業信用狀の交付を受け、日本の生糸輸出商に注文書と共に送附す。

2. 輸出商は爲替銀行に至り所謂エクスポート・アカウントにより生糸買入資金の借入をなし、同時に爲替豫約をなす。

3. 輸出商はこれを出て生糸問屋より現金拂を以て生糸を買入れる。

4. これより先き問屋はその取引銀行に於て、手形貸付又は當座貸越を受け、資金を調達し、これを以て製糸家より生糸を買ふのである。その生糸を今輸出商に引渡す (もつとも製糸家よりの委託販賣に基く生糸が問屋宛に荷爲替附で送附される時は、問屋はその荷爲替を支拂ふに當り、別納當座貸越なる便法を用ひることが變る普通

であ  
る。①



5. 輸出商はその生糸をアメリカ向船積發送す、而て速に送達するため  
バンクーバーよりこれを "Silk Train" を以てニューヨークに送る。  
6. かくて輸出商は生糸發送と同時に信用狀發行銀行宛手形を振出す。  
7. それは弗貨手形である、これに荷爲替書類を附屬せしめたる上爲替  
銀行に於て割引に付す。

8. その手取金を以て先きの借入金元利返済をなす。  
9. 爲替銀行はそのドル手形をニューヨーク支店向送附す、それはサン  
フランシスコより飛行便を以て普通送達せらる。

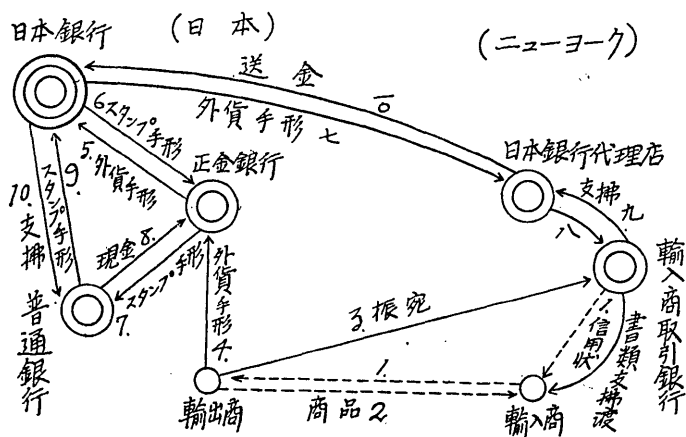
10. 爲替銀行ニューヨーク支店はこれを信用狀發行銀行に呈示し、その  
引受を求む(但、その手形が一覽拂のものなるときは現  
金拂を受く、従て銀行引受手形は生じない)  
11. かくて Bank Acceptance が生れるのである。

12. 爲替銀行ニューヨーク支店はこの Bank Acceptance を割引市場に  
賣却し、以て輸出手形殊に棉花手形の買入資金を調達する理である。  
13. 信用狀發行銀行は荷爲替書類の支拂渡をなす。

以上が生絲輸出貿易金融の概略である。

プール信用狀又は商業信用狀附) により行はれて居る。この場合は既に銀行引受手形が用ひられて居るが、唯そ

(ニニ一三一七)



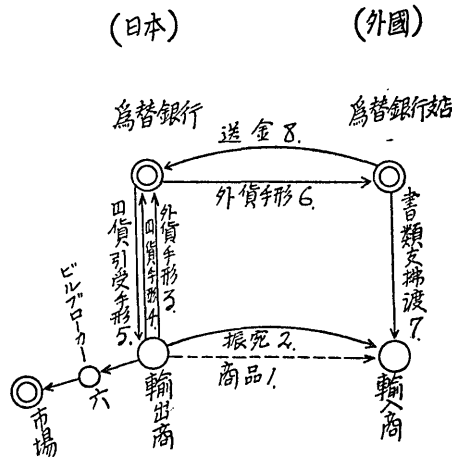
この從來の方法によるときは、爲替銀行は必要に應じては、その手形を満期日前にニューヨークやロンドンの金融市場に出し、以てその低金利を利用する便があり、又輸出商にとりても外國の信用ある銀行發行の信用狀あるときは、その輸出手形割引に當りさまで不利を蒙ることなかるべきを以てである。もし強ひてこの場合を利用し、我市場にこの輸出手形を出さんとせば、既述の如く副手形を利用するか——もつとも副手形を外貨手形とせば我市場にて流通困難であらう——又、後述の如く、これを擔保として、輸出手形ランブル信用を利用し、輸出商をして爲替銀行宛に手形を振出させ、その引受を求めしめる外ないであらう。戦後一時輸出貿易金融に於て利用せられたるスタンプ手形制度は、一種の銀行引受手形制度となす學者もあれども、私見を以てすれば、寧ろこの副手形制度の一種の變形と見るべきであらう。唯この場合、副手形の作製者が輸出商なる代りに、日本銀行であるだけの

相違である。而て寫し手形に對する日本銀行の責任は、手形裏書人としての責任である。今スタンプ手形制度の概略を示せば、右圖の如くである。<sup>①</sup>

二、中南米、近東、アフリカ、バルカン、南北歐、ソ聯等宛輸出の特殊の場合、即、外貨個人手形による場合、我貿易上の販路擴張のため新開地よりの註文に對しては信用狀なしに商品が積出さるゝことがある。即、外貨個人手形の生ずる所以である——所謂輸出補償制度はかゝる場合の危險に備へられたものである——その外、歐米宛輸出の場合にも個人手形が用ひらるゝことがある。所謂 House bill 又は Pig on Port の如きその一例である。

かゝる個人手形は爲替銀行にとりても前例と異り、之をニューヨーク又はロンドンの割引市場に處分し以てその低金利を利用するの利便なく、又輸出商にとりてもこれを有利に割引することは當事者の信用絶大なるときは別であるが普通困難で——もつとも現今は輸出補償制度の存在により、この困難は大いに緩和せられて居るが——あらう。故にこの場合、輸出手形ランブル信用制度を應用することは、その效用甚だ大にして、その作用又妙である。即爲替銀行は兼ねて輸出商の依頼により輸出手形ランブル信用を許與せるときは、輸出商をしてこの外貨個人手形(但し荷爲替手形)を擔保として預託せしめ、これに對し、その時の爲替相場を以て圓貨に概算せる金額の五掛乃至七掛を以て圓貨手形を自行宛に振出さしめ、之を引受くるのである。かくの如く、この輸出手形ランブル信用に基いて振出さるる手形の額面は概算金額の五掛乃至七掛を寧ろ普通とする。蓋、爲替銀行は海外の手形支拂人の信用に付ては、未知の關係にあるが故である。

而てこの圓貨引受手形の期間は、外貨個人手形の取立代金を以て支拂ひ得る様之を按排するのである。又、支拂殘額は之を輸出商の當座預金勘定に振込むのである。その過程の概略は上圖の如くである。<sup>①</sup>



かくするときは銀行引受手形が輸出商よりビブルローカーの手を通じて我公開割引市場に出され得る理であり而もそれは圓貨銀行引受手形なるを以て、最も有利なる條件を以て輸出商は容易にこれを割引し得るであらう。實行の可能性相當存するものと云ひ得るであらう。(補償制度はこの場合にも尙實施し得るであらう)

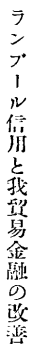
三、滿支・南洋宛輸出の場合、即ち圓貨利付個人手形による場合、滿支・南洋への輸出の大部分は圓貨利付個人手形によつて居る。

又、今我輸出の主要商品たる綿糸の輸出貿易金融に付て考察せんに、その濠洲、アフリカ、歐洲向のものは輸入商の依頼——多くはその取引銀行を通じての依頼——によりロンドン銀行の發行せる手形ランブール信用狀に基きポンド手形が振出され、ロンドンにて決済され、又中南米向のものは、英國銀行の手形ランブール信用狀に基きポンド手形が振出され、ロンドンにて決済されるか、或は米國銀行の商業信用狀に基きドル手形が振出され

① W. Kalverem: a. a. O., S. 1405.



る①



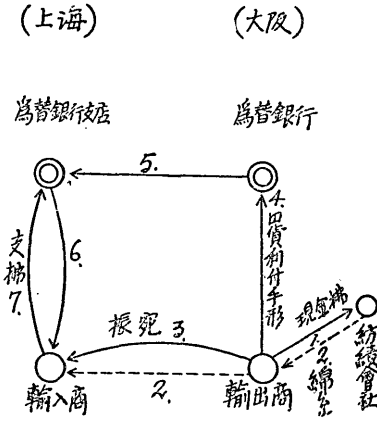
今、例を滿支南洋宛綿糸の輸出にとりその概略の過程を述べれば左圖の示すが如く次の如くである<sup>②</sup>（綿糸以外の商品についても同様である）

1. **Introduction**  
 2. **Background**  
 3. **Methodology**  
 4. **Results**  
 5. **Discussion**  
 6. **Conclusion**  
 7. **References**

② 大島堅造・前掲・174頁

利子には我輸出奨励策として低利政策が採用されてゐる。即、政府は日本銀行を通じて特殊爲替銀行に對し低利貸付をなし、以て利付手形の利率を低下せしめて居る。しかし市中銀行間には別に協定は存せざるもの、如く、唯これに倣ひなるべく低利率を保つことに努め、昭和十一年四月以來は四分五厘見當なりと云ふ。

爲替銀行が圓貨手形を買取れるときはその収益は手形に付せらるゝ、利子より取立手数料を差引けるものである。



5. 爲替銀行はその買取れる手形を荷爲替書類と共に海外支店例へば上海支店に送附す。

6. 上海支店はこれを支拂人たる輸入商に呈示、引受を求め、満期日に至れば更に支拂を求む、又支拂と引換に荷爲替書類を輸入商に引渡す理である。

7. この際輸入商の支拂ふべき金額は手形額面に利子を加へたるものにしてこれをその時の爲替相場を以て支拂地の貨幣例へば支那の貨幣に換算してそれを以て支拂ふのである。而してその利子は、もし電信賣相場によりてその手形が支拂はるるときは、手形の振出日よりその支拂日までの期間に對し徴せられ、又要求拂賣相場によりて支拂はるるときは、更に

それに加ふるに、支拂地より日本までの郵便日數に對する分をも徴せらるゝのである。

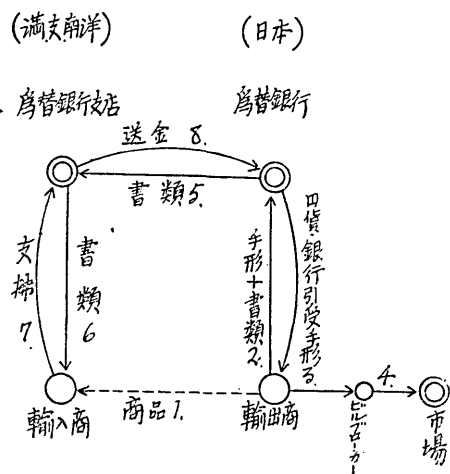
以上の場合にもし輸出手形ランブル信用制度を實施し、それによる銀行引受手形を我公開割引市場に出さんとせば、如何なる方法によるべきか、凡そ次の如き型態が考へ得られる。<sup>①</sup>

a) 普通の場合

① W. Kalveram: a. a. O., S. 1405.

1. 輸入商宛商品の船積發送。

2. 輸出商は兼ねて爲替銀行に對し輸出手形ランブル信用を依頼承諾を求め置くのである。然るときは商品の發送と同時に輸出商は送狀面の金額の五掛乃至七掛を額面とする手形をその爲替銀行宛に振出すのである。



3. 爲替銀行はこれに對し荷爲替書類及送狀の引渡と引換に引受をなすのである。或は又輸出商をして、輸入商宛に圓貨手形を振出さしめ、この荷爲替手形を擔保として預託せしめ、これと引換に引受をなすこともあるであらう。(寧ろこの場合が普通であらう)。

4. かくて生ぜる圓貨銀行引受手形——その期間は海外の輸入商よりの取立代金を以て決済し得る様に按排してあるが——は輸出商よりビル・ブローカーの手を通じて、公開割引市場に出され得る理である。

5. 爲替銀行は更にその手形又は書類及送狀を海外支店に送附す。

6. かくて海外支店をして支拂と引換に荷爲替書類を輸入商に交付せしむ。

7. 輸入商は手形面又は送狀面の金額をその時の爲替相場を以て換算し、その國の貨幣を以て支拂ふことは前の

場合と同一である。

8. 爲替銀行支店はこれを本店に送附し本店はこれを以て先きの銀行引受手形を満期に至り支拂ふのである。

b) 更にこの場合輸入商取引銀行が介在する場合もあるであらう。

以上の如く、この場合輸出手形ランブル信用制度を利用するに至れば、(一)爲替銀行はその爲替資金豊富なる時は、顧客の呈せる圓貨個人手形を自ら割引し、又、缺乏せる時は割引の代りに之を擔保として引受信用を與へ、以て顧客に資金調達上の満足を與へ得るであらう。(二)又、顧客も圓貨個人手形の割引を求むるよりも、その何掛かの引受手形の交付を求むる方が、銀行との交渉も圓滑に運むべく、且かくて得たる銀行引受手形は、これを容易に何時にても市場に於て有利に割引し得るであらう。(三)且、かくて市場には圓貨銀行引受手形が出現するであらう。以上a)及b)の型態の下に、我輸出貿易金融に於て實施し得べき手形ランブル信用制度は、その可能性相當大なりと見るを得べく、かくて我金融市場に出で得べき銀行引受手形は一ヶ年相當の額に上り得るであらう。

以上を以て私は我輸出貿易金融及輸入貿易金融に於て銀行引受手形、殊に圓貨銀行引受手形を利用し得べき各場合に付考察し來れるが、それによれば輸入貿易金融に於ても輸出貿易金融に於ても現實に銀行引受手形を使用し得る可能性が相當あると見るべきである。かくて我公開割引市場に銀行引受手形が流通するに至らば、我金融市場發展のため、將又、我國銀行の短期資金運用上貢獻する所蓋し少くないであらう。

以上の外、國內取引に於ても相當の銀行引受手形を利用し得るであらう。しかし國內銀行引受手形には融通手形が相當包含せらるべく、而てそは自動的決濟力を缺ぐを以て品質上貿易手形に劣るものと云ふべきである。故に公開割引市場の健全なる發達を期するがためには、ロンドンのその如く、最も優秀なる所謂眞正銀行引受手形（即、貿易手形）及大藏省證券等にのみ限るを以て理想とするであらう。しかし何分我が市場に出すべき銀行引受手形は、最初は當分少量なるべきを以て、それが大量となり、市場が充實し來るまでは止むを得ず、この國內銀行引受手形をも包含して取引するの外無いであらう。